

# 2026年3月期 決算説明資料

2026年5月13日

ポラリス・ホールディングス株式会社



皆様こんにちは。ポラリス・ホールディングス 代表取締役社長の田口でございます。  
本日は2026年3月期決算の概要と、2027年3月期の業績予想についてご説明いたします。

# エグゼクティブサマリー

## 決算

直近の業績予想を上回る着地  
売上・利益・EPSいずれも  
**前期同期を大きく上回る**

## 事業環境

2025年訪日外客数は過去最高  
日中関係悪化の影響は12月から  
**中東情勢の影響を注視**

## 事業概況

既存運営ホテルのRevPARは  
前年同期比で  
**+11%**と好調な結果

## 新規出店

8ホテルが開業  
22ホテルの新規出店が決定済み  
**順調に規模拡大**

## 中期経営計画の進捗

好調な業績により  
各目標値を1年前倒しで  
**概ね達成**

## 株主還元の取り組み

期初予想3円を**5円に増配**  
**株主優待を拡充**

2026年3月期はインバウンド需要の拡大が続く中、ミナシアとの経営統合効果に加え、新規出店、既存ホテルの好調な業績に支えられ、売上、利益ともに大きく成長した一年となりました。

それでは、決算ハイライトからご説明いたします。

## 決算ハイライト〔のれん償却前〕

- (1) ミナシアとの経営統合、新規出店、既存運営ホテルの収益増加により、大幅な増収増益を達成
- (2) 当期純利益は繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額を約19億円計上したことで大幅に増加
- (3) 税引前当期純利益をベースにしたEPSも前年同期比+84%と大きく成長
- (4) 配当は期初予想から増配し、5円に決定

単位:百万円	2025年3月期 実績 注	業績予想 2026/3/25公表	2026年3月期 実績	業績予想比		前年同期比	
				増減額	達成率	増減額	増減率
売上高	27,153	47,000	<b>48,469</b>	+1,469	103%	+21,317	+79%
営業利益	2,403	5,004	<b>5,346</b>	+342	107%	+2,943	+122%
経常利益	1,492	3,904	<b>4,200</b>	+296	108%	+2,708	+181%
税引前当期純利益	1,488	-	<b>4,144</b>	-	-	+2,655	+178%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,209	5,304	<b>5,900</b>	+596	111%	+3,691	+167%
税引前EPS (円)	9.64	-	<b>17.72</b>	-	-	+8.08	+84%
のれん償却費	326	1,304	<b>1,304</b>	-	-	-	-
配当 (円)	3.0	4.0	<b>5.0</b>	+1.0	+25%	+2.0	+67%

注 1. 一時的な要因である出資分配益（728百万円）の影響を除外した数値。  
 2. ミナシア及び海外ホテル（1ホテル除く）の業績は2025年1月～12月期の業績を取込み。  
 3. のれん償却費はミナシア買収に伴って2025年3月期第4四半期より発生。詳細はAppendix P.29に記載。

2026年3月期の業績です。

昨年度は2回の業績予想の上方修正を行いました。その予想をさらに上回る結果で着地いたしました。

売上高は484億円と前年同期比79%増となりました。のれん償却前の営業利益は53億円となり、前年同期比122%増と大きく成長しました。

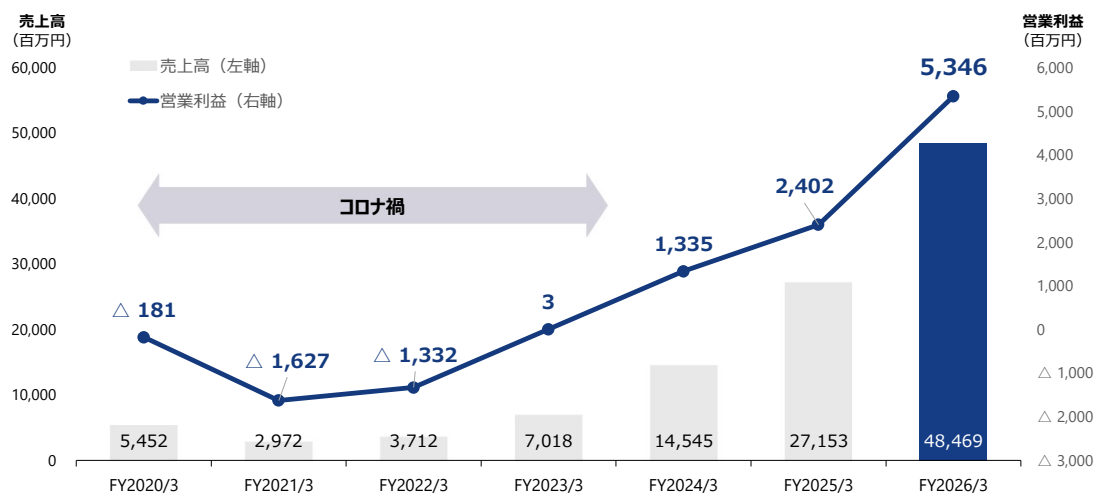
当期純利益については繰延税金資産の計上により一時的に押し上げられていますが、キャッシュへの影響はありません。

税引前EPSは前年同期比84%増と大きく成長しました。

2026年3月期の配当については期初予想3円から5円へ増配し、株主還元を強化しました。

# 決算概要：売上高・営業利益(のれん償却前)の推移

コロナ禍の2022年3月期以降、5期連続で増収増益を達成

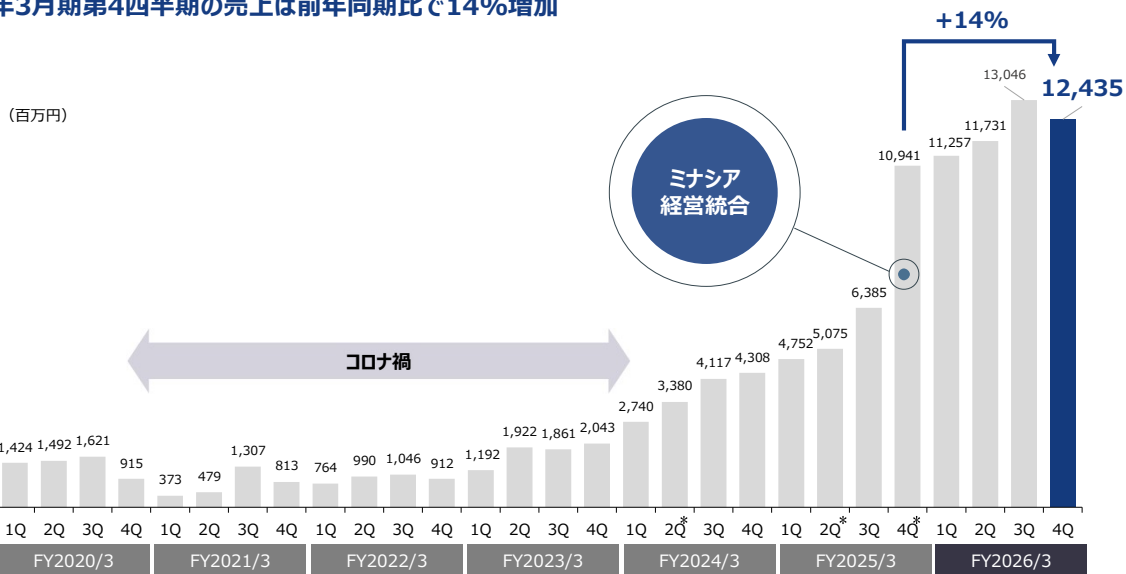


※ 一時的な要因である不動産売却及び出資分配益の影響を除外した数値。

当社はコロナ禍以降、五期連続で増収増益を達成し、過去最高の売上高・営業利益を更新しました。

## 決算概要：四半期売上の推移

- ・ ミナシア統合後も既存ホテルの売上増加及び新規出店効果により順調に売上増加が継続
- ・ 2026年3月期第4四半期の売上は前年同期比で14%増加

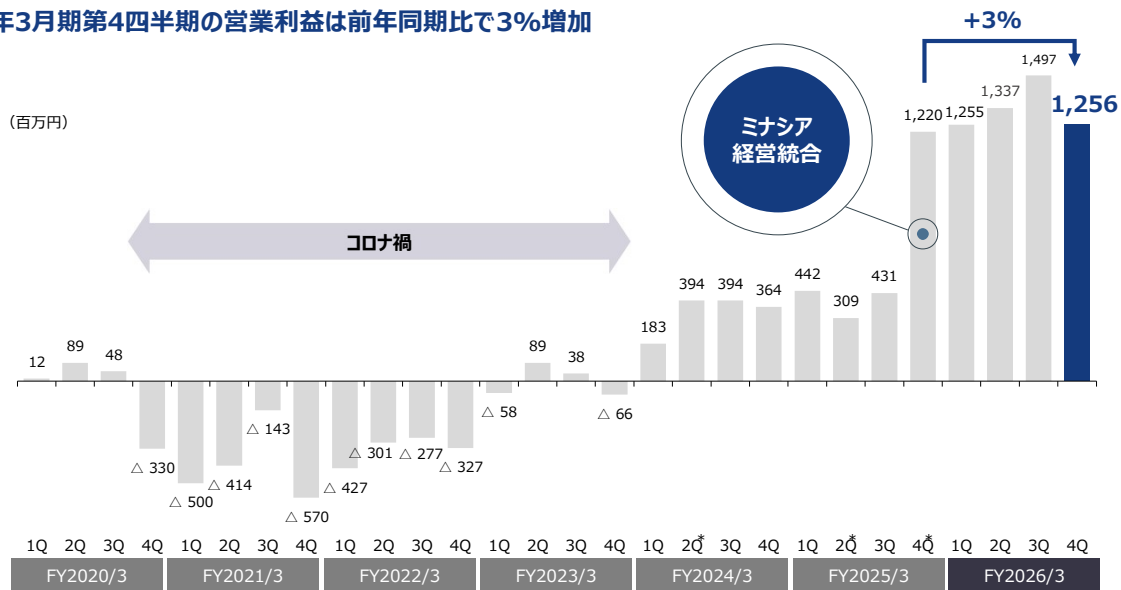


\*一時的な要因である不動産売却及び出資分配益の影響を除外した数値。

四半期ごとの売上も順調に伸びております。

## 決算概要：四半期営業利益（のれん償却前）の推移

- 売上増加に伴い、営業利益も順調に伸長
- 2026年3月期第4四半期の営業利益は前年同期比で3%増加

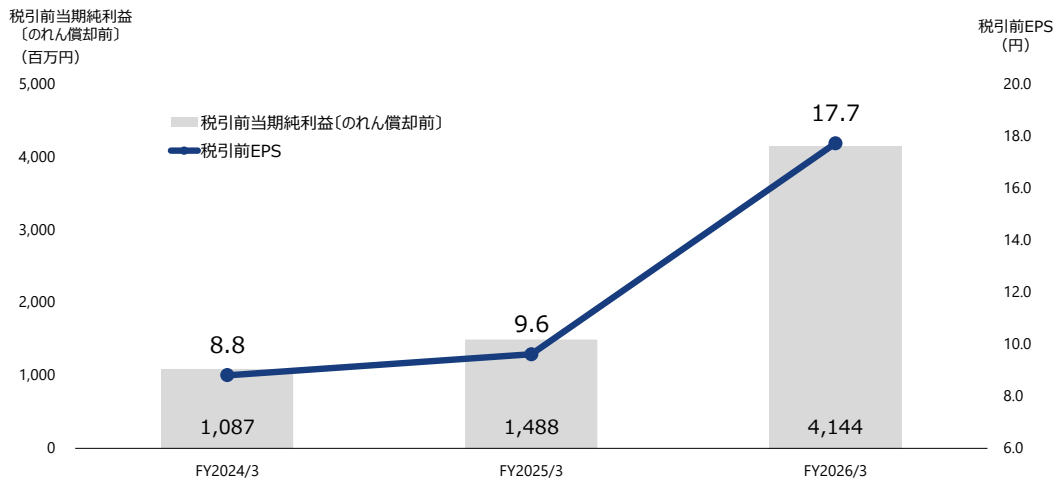


\*一時的な要因である不動産売却及び出資分配益の影響を除外した数値。

四半期ごとの営業利益も売上増加に伴い成長しています。

## 決算概要：EPSの推移

のれん償却費、繰延税金資産の計上の影響を排除した税引前当期純利益をベースにしたEPSでは、ミナシアの経営統合、ホテルの開業、既存ホテルの収益増加により大きく成長



注：税引前当期純利益〔のれん償却前〕÷期中平均株式数で計算。2024年3月期および2025年3月期は一時的な利益である不動産投資持分売却益等を除外。

EPSも利益成長に伴い成長しております。

## 2026年3月期の主な事業トピックス

### PMIの進捗

- KOKO HOTELSへの**ブランド統合が完了**し、全ホテルのリブランドが完了
- ポラリス・ミナシアの**組織統合・再編及び事務所移転が完了**
- 今後のホテル数拡大に向けた**基盤構築が進む**

### 好調な新規出店

- 新たに**11ホテル**の新規案件を受注
- 2026年3月期は**8ホテルが開業**
- **新ブランド**「kokonoyu」、ライフスタイルホテルの新ブランド展開を決定

### 新たな取り組みへの挑戦

- 外資ブランドをパートナーとする**マスターリーススキーム**をスタート
- ニセコのアップスケールホテルのアドバイザー契約を獲得
- 大阪・海浜幕張のホテルへスポンサーグループとの**共同投資を実行**

### その他

- **上場維持基準（流動性比率）に適合完了**
- スポンサーグループが「**みずほリースグループ**」と**資本業務提携**契約を締結し、さらなるサポート強化を期待

当期の主なトピックスです。

ミナシアとのPMIは順調に進捗し、ブランド統合や組織再編、本社移転も完了しました。

新規出店については、11ホテルを受注し、8ホテルを開業しました。新ブランド「この湯」を立ち上げました。

スポンサーとの共同投資やマスターリースなど新たな取り組みも進めています。

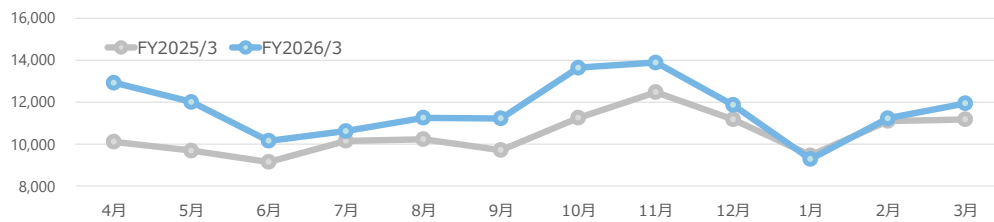
## 事業概況：国内ホテル - ポートフォリオKPI

インバウンドを含む堅調な需要に支えられ年間のRevPARは前年同期比 **11.3%増加**と好調な結果

2025年4月～2026年3月（12ヶ月）

比較可能ホテル： 65ホテル	実績		前年同期比	
	前期	当期	増減数	増減率
客室稼働率	87.6%	<b>90.2%</b>	+2.5%	—
ADR（円）	11,976	<b>12,954</b>	+979	+8.2%
RevPAR（円）	10,496	<b>11,682</b>	+1,186	+11.3%
インバウンド比率	47.7%	<b>51.7%</b>	+4.0%	—

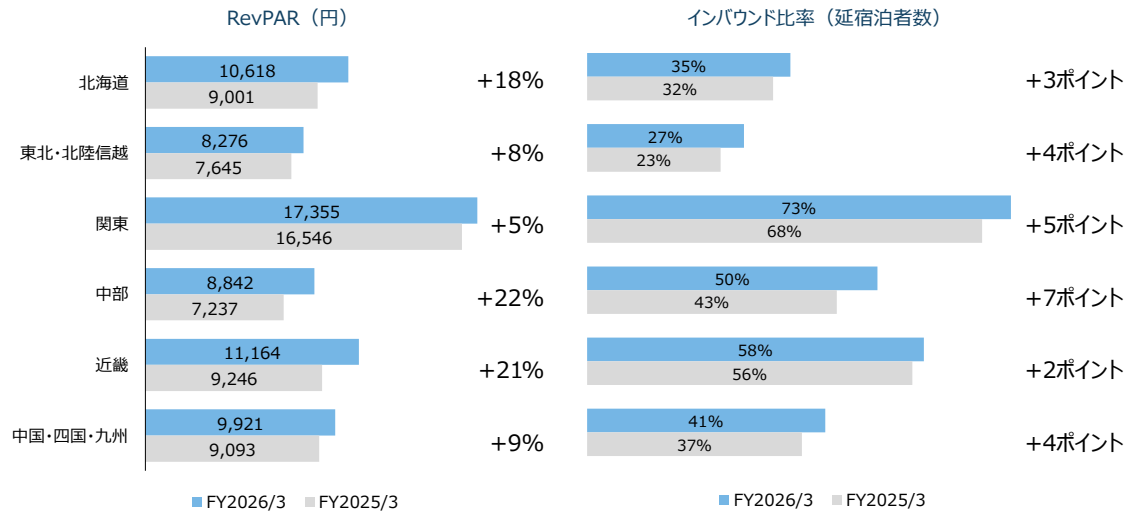
国内ホテルRevPAR推移



国内ホテル需要は非常に好調で、RevPARは前年比11.3%増となりました。

## 事業概況：国内ホテル - エリア別KPI

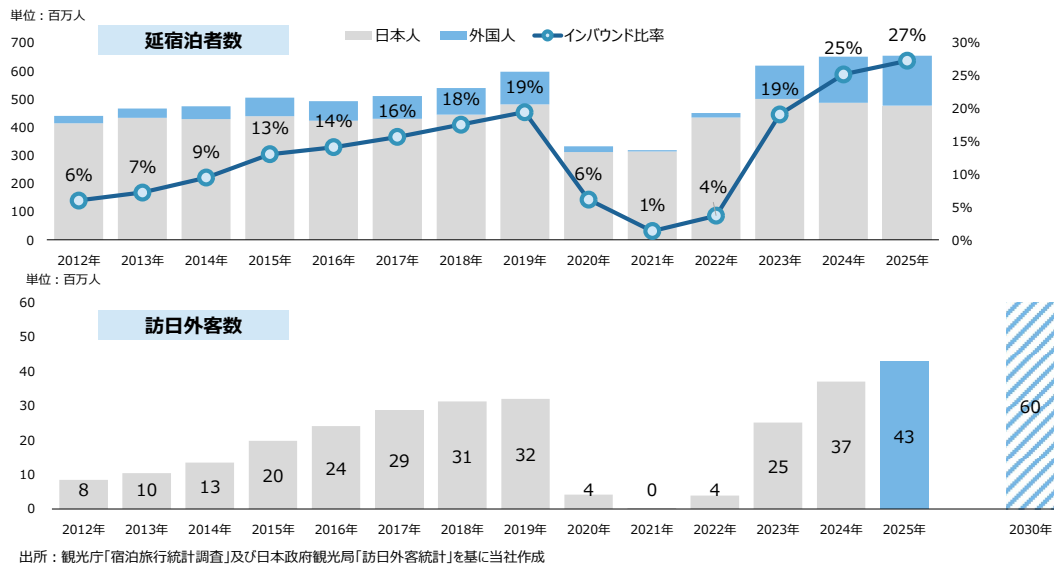
- 全てのエリアでインバウンド比率が増加し、RevPARも成長
- 特に北海道、中部、近畿エリアのRevPARは大きく成長



(該当なし)

## 事業環境：延宿泊者数・訪日外客数推移

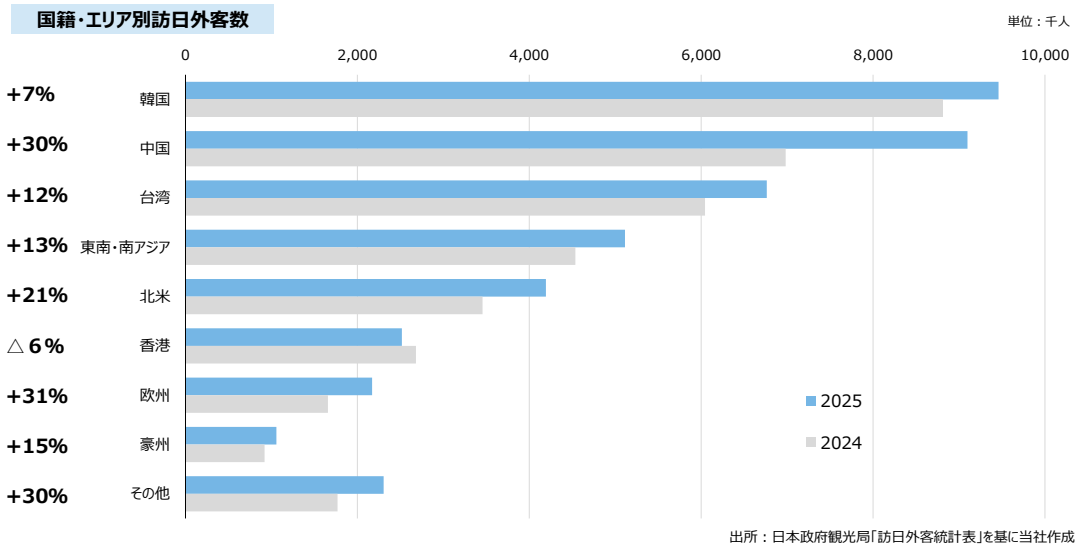
- ・ 2025年の訪日外客数は約43百万人と過去最高値を更新
- ・ 政府目標である年間60百万人の達成に向けて引き続き成長が見込まれる



訪日外客数は約4300万人で過去最高を更新しました。

## 事業環境：国籍・エリア別インバウンド動向

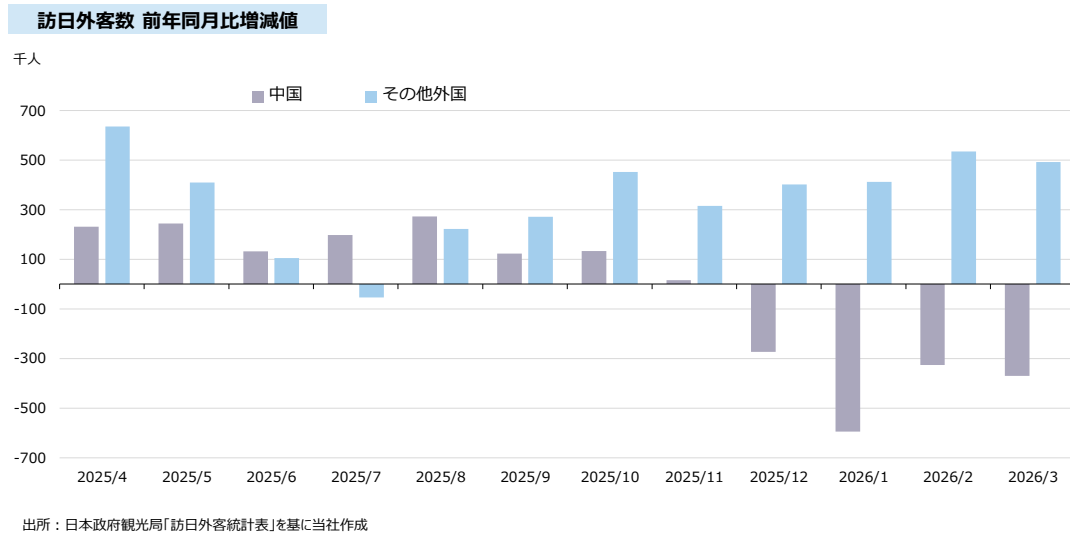
- ・ 2025年は香港を除き多くの国・エリアからの訪日外客数が増加
- ・ アジアからの訪日客の増加に加え、特に北米・欧州からの訪日客も増加傾向が継続



中国は減少傾向ですが、他地域がカバーしています。

## 事業環境：日中関係悪化の影響

- 中国については2025年12月以降、減少傾向が継続する一方、その他外国は増加傾向を維持
- 当面は中国人ゲストの減少をその他外国がカバーする状態が継続するものと想定

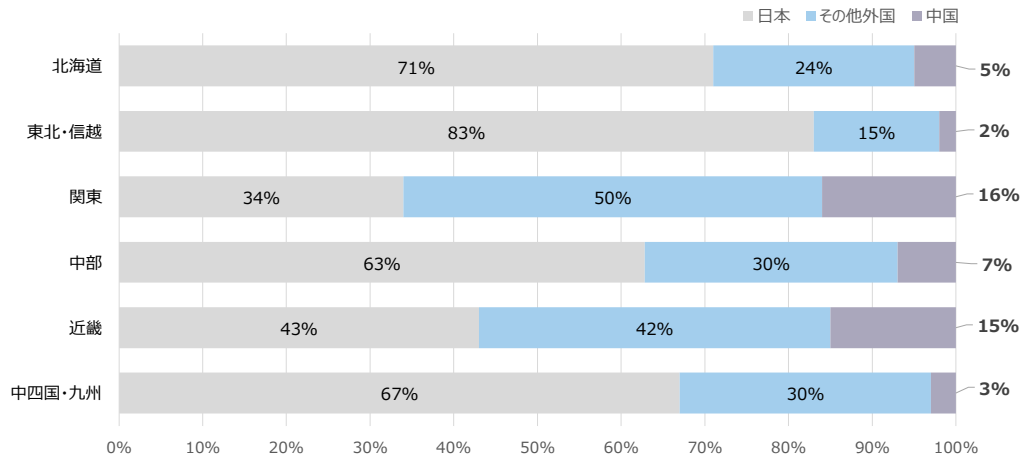


(該当なし)

## 事業環境：日中関係悪化の影響（続き）

- 中国人ゲスト比率が高い関東・近畿エリアでは影響を受けたが、その他エリアでの影響は限定的
- 中国人ゲストの減少が仮に長期化しても、ポートフォリオの地域分散効果により減少をカバー

エリア別延販売客室数 国籍別比較（2025年4月～2026年3月）

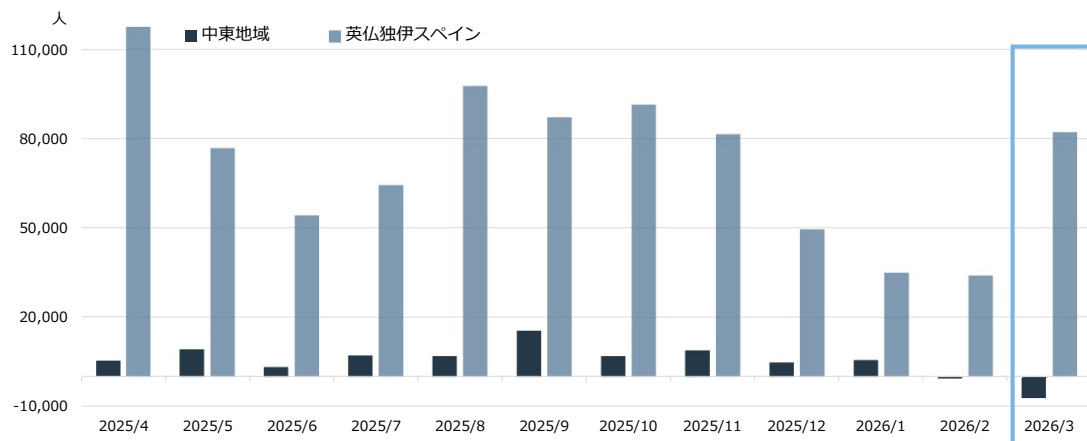


（該当なし）

## 事業環境：中東情勢の影響

- 中東情勢の影響により、2026年3月の中東からの訪日客は前年比で減少
- 中東の空港を経由する便が多いヨーロッパからの訪日客は大きく増加しており、現時点では影響が不透明であるため、今後の状況を注視

訪日外客数 前年同月比増減値



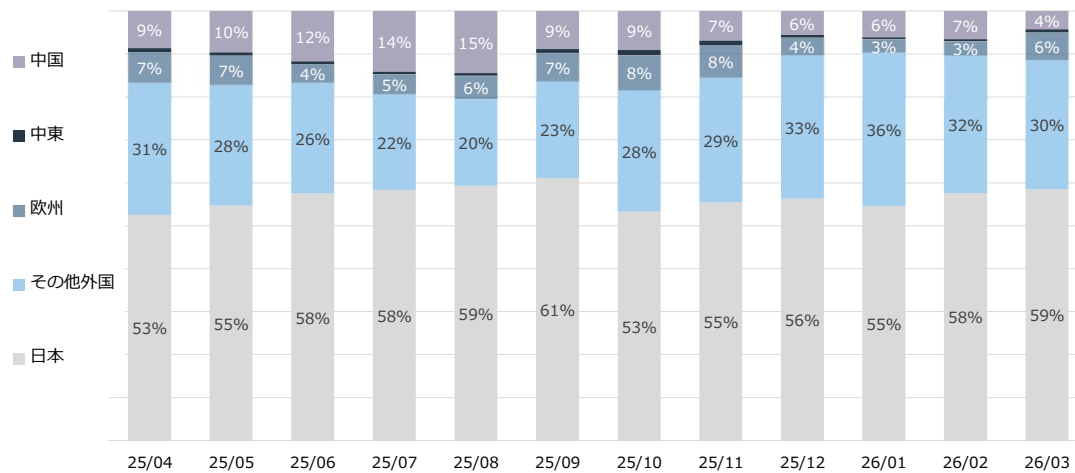
出所：日本政府観光局「訪日外客統計表」を基に当社作成

中東の影響は現時点では軽微ですが、引き続き注視します。

## 事業環境：中東情勢の影響（続き）

- ・ 中東からのゲストのシェアは全体の1%未満であり、減少による当社への影響は軽微
- ・ ヨーロッパについては、直近のシェアは6%程度と高くないものの今後の情勢を引き続き注視

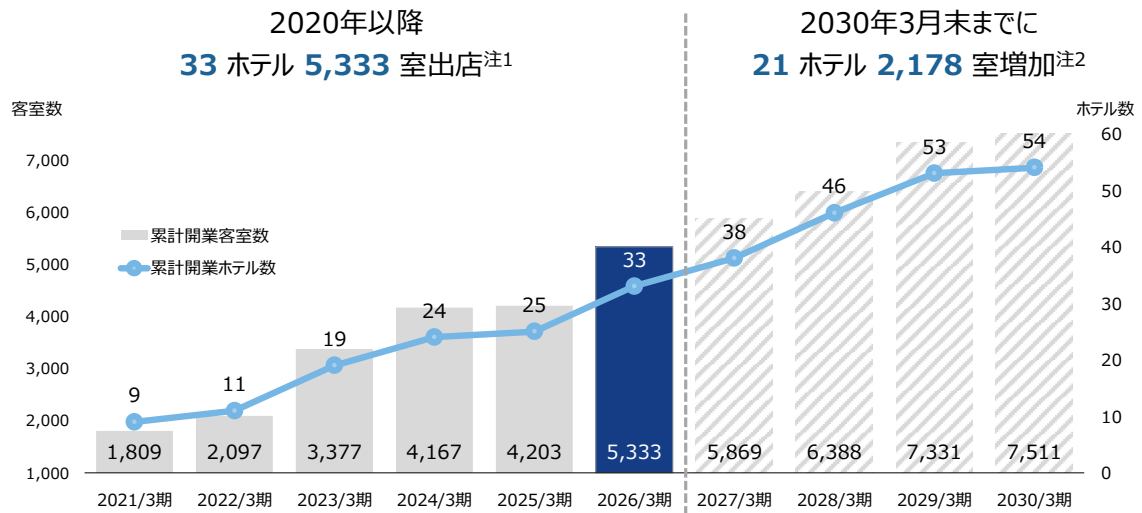
国内比較対象ホテル / 国籍別延販売客室数構成比



(該当なし)

## 新規出店の状況：国内新規出店累計

- 2026年3月期は8ホテルを開業
- 2026年3月期に11件の新規案件を受注し、好調な受注ペース



注：1. 企業買収（レッドプラネットおよびミナシア）によるホテル数・客室数の増加を含まない。  
2. 開示済の契約済みホテルのみの推移であり、契約締結に向けて交渉中・検討中等のホテルを含まない。

2026年3月期は8ホテルを開業し、今後は115ホテル規模を見込みます。

## 2027年3月期 業績予想〔のれん償却前〕

- (1) 既存ホテルの売上増加（RevPAR+5%）及び新規出店（5ホテル）等により売上は12%成長を見込む
- (2) 当期純利益は繰延税金資産の計上による影響で、法人税等調整額で前期比で約32億の差異が発生することにより減益となる見込みだが、法人税等調整額の影響を排除すると実質的には成長
- (3) 2027年3月期の配当予想は5円を予定

単位:百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期 業績予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	48,469	<b>54,500</b>	+6,031	+12%
営業利益	5,346	<b>5,504</b>	+158	+3%
経常利益	4,200	<b>4,304</b>	+104	+2%
税引前当期純利益	4,144	<b>4,304</b>	+160	+4%
法人税等調整額	△1,857	<b>1,349</b>	3,206	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,900 (4,043)	<b>2,903</b> <b>(4,253)</b>	-2,996 (+210)	-51% (+5%)
税引前EPS (円)	17.72	<b>18.40</b>	+0.68	—
のれん償却費	1,304	<b>1,304</b>	—	—
配当 (円)	5.0	<b>5.0</b>	0	0%

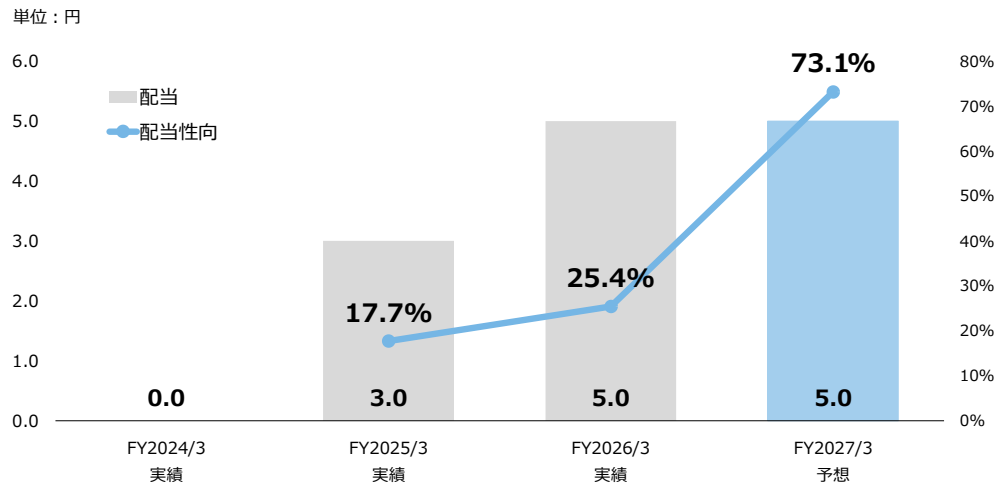
注：カッコ内の数字は法人税等調整額の影響を排除した実質的な当期純利益の金額

2027年3月期は売上545億円、営業利益55億円を見込みます。

当期純利益は会計要因で減益ですが、実質は増益です。

## 株主価値の向上：配当の上方修正

- 配当を期初予想3円、上方修正後4円から、さらに5円に増配し、株主様への還元を強化
- 法人税等調整額の影響を排除した実質的な配当性向は、FY2026/3は42.7%、FY2027/3予想は39.7%



2027年も配当5円を予定しています。

今期は飛躍的成長となり、中計を前倒し達成しました。

今後ご支援よろしくお願いいいたします。ありがとうございました。

## 留意事項:国内運営ホテル及びエリア別KPIについて

1. 2024年4月時点において運営を開始しており、かつ2026年3月末日時点で運営を継続しているホテルを集計対象としています。前年度の各数値は、2025年3月期より連結対象となった株式会社ミナシアが運営しているホテルの数値を含みます。また、東日本大震災からの復興支援を主目的とした社会貢献ホテルの「パリュール・ザ・ホテル」ブランドの4ホテルは集計対象外としております。
2. 客室稼働率：対象期間の販売客室数を同期間の販売可能客室数で除した数値をいいます。
3. ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいいます。一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を含みます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
4. RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除した値をいいます。
5. インバウンド比率：一定期間の延宿泊者数に占める外国人延宿泊者数の比率をいいます。
6. 客室稼働率、インバウンド比率、ADR及びRevPARは小数点以下を四捨五入して記載しています。
7. 各エリア名の括弧内に当該エリアに含まれる集計対象ホテル数を記載しています。
8. 上記の数値あるいは情報は監査等の手続きを経ていないため、個々の数値あるいは情報の内容の正確性・完全性について保証できるものではなく、今後修正される可能性がありますのでご注意ください。

## 本資料に関する注意事項

本資料は、株主・投資家の皆様への当社に関する情報提供のみを目的とするものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。

また、本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。そのため、一定のリスクや不確実性が含まれており、今後の事業環境や通常予測し得ないような特別事情の発生により、将来の予想と実際の業績が異なる場合があることをご承知おください。

業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。株主・投資家の皆様の本資料をいかなる目的でご利用される場合においても、皆様ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

また、本資料を無断で複写複製、転送等を行わないようお願いいたします。

●IRに関するお問い合わせ

ポラリス・ホールディングス株式会社 IR推進部  
e-mail: ir.dept@polaris-holdings.com

(該当なし)

旅に笑顔を。人生に彩りを。

